

## ○ 野洲市交通ネットワーク構想の実現に向けて（意見等）

### ・先取りしたまちづくり

交通は、人間が社会活動する上で不可欠なものであり、交通を目的にするのではなく、人の暮らしや経済活動を豊かにするための補完システムとして、少子高齢化や人口減少等の社会経済情勢の変化をしっかりと捉え、目標年次を持ち、先取りした「まちづくり」への具体的な取組みが必要となる。

### ・地域の活性化

野洲市では、「市街地のまとまり」、「地域の規模」、「地域としての一体性」、「歴史的背景」などから、大きく7つの地域（野洲、北野、三上、祇王、篠原、中里、兵主）に区分されており、今後の地域活性化を図るうえで、各地域の特性、潜在ポテンシャルも含めた地域交通ネットワークや交通システムを構築することが重要となる。

### ・「国・県・市」の協働連携

平成12年の京阪神パーソントリップ調査や交通渋滞の現状から、野洲市の交通は自動車交通への依存度が特に高いので、必要となる道路交通ネットワークの充実が必要である。

国道8号野洲栗東バイパスや都市計画道路大津湖南幹線のような「広域幹線道路」、主要地方道野洲中主線のような「地域内幹線道路」、住宅・集落地内の「生活道路」といった3つの道路区分がある中で、より面的な道路交通ネットワークの構築に向けて、国・県・市の協働連携が不可欠である。

### ・高齢者への対応

今後ますます少子高齢化や人口減少等の社会経済情勢の変化が進み、また昨今の景気の低迷による財政が逼迫している中であって、「中心市街地の活性化」や「コンパクトシティー」といった集約型、また効率重視のまちづくりが重要視される。

しかし、日本人は土着性のある民族であり、長年、生まれ育った地域に愛着があり、自らの地域コミュニティもあることから、高齢者になればなるほど今の居住区から離れがたくなる。

既存集落など地域に住み続ける高齢者の方が、「安全・安心・快適」に生活できるための交通手段の確保が必要であり、ぜひそのようなまちづくりを進めていただきたい。